

政策の柱 3のK

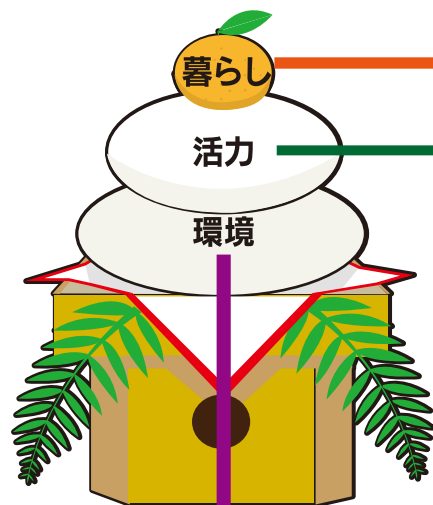
～誰もが住みたい・住み続けたい～南阿蘇村の実現

Kankyo[環境] Katsuryoku[活力] Kurashi[暮らし]

を表します。(KiraKiraプラン)

恵まれた環境が土台となり産業を後押しし、活力を生み出します。生まれた活力は村人の豊かな暮らしへとつながっていきます。

3つのKのイメージ



Kurashi 暮らし

「大自然の中で子どもがすくすく」「お年寄りは生き生き」すべての村民が幸せを感じる、そんな「暮らし」を目標とします。

震災の教訓を生かし、災害に強い、安心安全な村づくりを進めます。

取り組んできたこと

- 旧久木野庁舎を図書室兼わくわく広場へ
- 白水地区3小学校を最速で統廃合
- 村営塾を継続(学力UP、志望校合格へ)
- 高校生までの医療費助成を簡素化
- 乗合タクシーの利便性向上
- 子育て支援課を新設し、支援を強化
- 集落再生のため戸建て賃貸住宅補助
- 祭りなど、地域伝統文化継承事業を創設
- 移住の手引き作成、移住をスムーズに

これから取り組むこと

- いつまでも元気な高齢者政策(交流会、サロン、教室、温泉券など)
- 子育て環境整備(学童保育充実、遊び場、医療など)
- 教育環境の整備(給食費補助、修学旅行補助、村営塾)
- 福祉の充実(シルバー人材センター、各種教室、障がい者支援など)
- 地元県立高校へ教育環境整備助成増額

取り組んできたこと

- あそ望の郷の機能強化(そば道場、駐車場)
- 「空家バンク」設立、移住定住促進
- 草千里東側牧野の保安林解除を実現
- 小規模基盤整備補助、農地集積補助を創設
- ハウスや灌水施設助成拡大、経営安定化
- 村営たい肥センター強化、有機農業を推進
- 難航していたホテルグリーンピアを譲渡
- 阿蘇登山道吉田線にビューポイントを整備

Katsuryoku 活力

「活力」なくして村の将来は語れません。環境を整え、それを土台として活力につなげます。

恵まれた自然環境を最大限に活かして振興を図り「元気な村」「魅力ある村」「選ばれる村」を創ります。

これから取り組むこと

- 担い手育成、荒廃地対策、草原再生
- ふるさと納税、企業版ふるさと納税を増収
- 公共交通網整備(乗合タクシー、南鉄、新バス路線：阿蘇山上⇄あそ望の郷)
- 公園整備(立野ダム周辺、白川水源近く)
- 企業誘致(商業施設、農産物加工など)
- DX推進(行政、農業、観光ほか)
- 上天草市や台湾東港鎮との連携事業促進

取り組んできたこと

- 水田や草原の地下水保全機能を積極発信
- 地下水保全基金、助成制度を創設
- 冬季湛水事業に加え、雨水湛水事業を始動
- 独自の草原支援(野焼き責任者、保険、防火帯)
- 小水力発電 200kW、地熱発電 200kW を開始
- 農業用廃プラの個人負担をゼロに
- 役場に木製ガードレールモデル設置(CO2対策)

Kankyo 環境

先人が守り伝えてきた雄大な「景観」、そして村民全てが誇りとする「水資源」、これらは村の宝であり、守り育み、将来に継承していかなければなりません。「水資源」とは、湧き水・温泉・蒸気のことです。

「水資源」は本村の貴重な財産であり、大切さを訴え、保全してまいります。

これから取り組むこと

- 低炭素社会を追求、日本のモデル地域へ
- 水田や草原の地下水保全機能の見える化
- 地下水保全事業の推進と継続
- 野焼き支援への財源確保(企業などから)
- 新たな再生エネルギー利活用(木質バイオマス)
- 資源環境システムの構築(ゴミ、食品残渣など)
- 上水道施設の改修整備、水の安定供給

SDGsは、経済・社会・環境の3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発を目指しています。

南阿蘇村の3つのKは、SDGsの3つの側面とほぼ同じ内容となっており、目指す方向が同じと言えます。

南阿蘇村の3つのK
環境・活力・暮らし

SDGsの3つの側面
経済・社会・環境

